

子育てコラム 40

性教育(命の教育) その4 「自分の体を知ること」

性(生)教育は私たちが生きていくためのもの、生きるための根源となるもので、生まれたときから日々の生活の中で始まっています。自分の体を守る教育、健康教育でもあります。「汗かいたね着替えようね、気持ちよくなったね。」「おしっこ出たね、きれいにしうね。」「いいうんちがいっぱい出たね。」このような養育者の語りかけやスキンシップ。気持ちよくなる体感や心が満たされる満足感。たくさんの「快」を感じ取ることから始まります。

そして自分の体を知ること。赤ちゃんは自分の手や足をなめたりすることで自分の体を知っていきます。トイレトレーニングのころオマルに座って自分の体から出るおしっこを見ると触りたくなります。触らせてあげましょう。そのようなことで自分の体を知ります。体の名称を覚えていくとき、性器の名称も伝えましょう。男の子は早い時期から「オチンチン」で教えてもらいますが、女の子はほとんどが「あそこ」です。学校では、「女性の性器」「ヴァギナ」、「男性の性器」「ペニス」の名称を使いますが、幼少時は“我が家流の名称”でもいいと思います。

性教育はまず自分を知ることから始まります。まずは体を知ることです。うんちが出たとき自分のお尻を触る子は多くいます。性器をいじる子も多くいます。触った時の感触が他の場所とは違うので頻繁に触ったりすることもあります。「そんなところ触るのやめて」とつい言ってしまいますが、大事な所きれいにしうねと伝えていきたいものです。あまり頻繁に触るようなら、赤くなっているいかを見て、一緒に遊んだりして気分を変えてあげましょう。

男の子は自分の性器を見ることができます。女の子は自分の性器を見ていません。ある時期になれば鏡で見せてもいいですが、母親自身性器を見たことのない方もいるので、それぞれのお考えでされるといいです。どのようなことでも、こうしないといけないというものはありません。ご自身やご家族、そしてご家庭の状況でお考えになるといいでしよう。

性教育は、「あなたが大切だよ」のメッセージを伝えていくものです。そして大事なことは、子どもがそのメッセージを受け取っているかどうかです。